

「市民講演会：統計データが示す地域経済活性化の方策」

日時：2004年9月3日(金) 午後5時30分から7時30分

場所：富士大学6号館 681 教室

当日資料配布の予定

「市民講演会の趣旨」美添泰人（青山学院大学）

現在、地域経済の活性化は、大きな課題のひとつとなっています。今回の統計関連学会による連合大会を花巻市の富士大学で開催するにあたって、地元である花巻市、北上市およびそれぞれの商工会議所から、地域経済活性化に関して統計を利用した分析を通じて何らかの情報を入手したいという希望が寄せられました。今回の市民講座は、そのような期待に応えるために、関連学会が協力したものです。

具体的には、富士大学が実施した企業アンケート調査から明らかにされる内容、その調査に比較的新しい分析手法を適用して得られた情報の紹介、および地方に関する主要な統計の活用方策の紹介を通じて、地域経済活性化という問題に対する統計データの役割を提示する試みです。今回の講演者は、次の方々です。ご期待ください。

武井安彦：一橋大学経済学部，同大学院，ロチェスター大学大学院を経て，現在，富士大学経済学部助教授。中堅の研究者として活躍しています。

熊坂夏彦：慶應義塾大学で統計理論と応用を研究する若手研究者です。

大林千一：官庁統計の中心的な組織である総務省統計局において，統計局長の要職にあります。なお，出身は当地近隣の水沢市ということです。

講演1．「東北域内産業集積地における企業アンケート調査の概要」武井安彦（富士大学）

以下の内容のうち，特に3番目のテーマを中心として紹介します。

1. アンケート調査の目的と方法
2. 回答した企業の基本的特徴
  - 業種，資本金，従業員数，営業利益，製品，経営資源など
3. 地域企業の研究開発の状況

#### 4. 地域企業の求めるものと求められる姿

- 循環型・高齢化社会への対応，株式公開

講演 2 . 「新事業支援強化に関するアンケート調査からわかること」熊坂夏彦（慶應義塾大学）

上記のアンケート調査について，さまざまな角度から統計的な解析を行った結果を紹介します。特に，研究開発や IT の導入状況などの要因が「市場公開の意思」をどのように左右するかを探索した結果から「自社独自の研究開発に力を入れつつ積極的に外界との交流を図る企業が市場公開に対して意欲的である」という解釈が導かれています。グラフを中心とした分析を通じて，統計的な手法の有効性を平易に解説します。

講演 3 . 「地域統計とその活用」大林千一（総務省統計局）

地域の社会・経済状況の把握のための一つの有力な手段は，官庁から公表されている統計データを利用することです。

この講演では，どのような統計データが利用できるのか，どのように入手できるのか，またそれらのデータからどのようなことが分かるのか，花巻・北上地域等を対象とした簡単な分析を試みながら，紹介します。